おばあちゃんが教えてくれたこと

― 動作化を通して礼儀を身近に考える ―

(1) 主題名　礼儀の意義　〔２－(１)〕　　関連項目　〔４－(９)〕
(2) ねらい　お箸の話から，日常生活における時と場に応じた適切な言動に気付かせ，形の根底に流れる礼儀の意義を考える。
(3) 資料名　「おばあちゃんが教えてくれたこと」
(4) 授業の展開例

	学　習　活　動	主な発問と生徒の心の動き	留　　意　　点
導入	1　身近な生活の中の礼儀や習慣を思いだす。	○小さいときから「これだけは守りなさい」と家族から言われていることはありませんか。 ・嘘を言ってはいけません ・玄関の靴をそろえなさい	○生徒の家族構成に配慮して，聞き方に留意する。 ○無意識のうちに，小さいときから礼儀や習慣を教えられていることに気付かせる。
展開	2　資料の前半部分を読み，たかしの言動について考える。 3　資料の後半部分を読み，おじいちゃんとおばあちゃんの願いを考える。 4　動作化を通して習慣として伝えられていることの意味について考える。	○このおじいちゃんをどう思いますか。 ・怒って当然だ ・いきなり怒るのはまちがっている ○二人の願いをどう思いますか。 ・別に誰にも迷惑をかけていないのだからこのままでいいと思う ・たかしのためを思って言っているのだから，直した方がいい ○おばあちゃんが説明しているおはしの使い方をやってみましょう。 ○これらのおはしの使い方を見ていてどんな感じがしますか。 ・ねぶり箸は気持ちが悪い ・迷い箸はなんだか卑しい感じ ◎これらのきまりをどう思いますか。 ・堅苦しいからやりたくない ・昔から伝えられたことだから大切にしたい ○これはすてきだな，守っていきたいなと思う習慣にはどんなものがありますか。 ・敬語　・贈り物をするときの包装	○希望者を募り，６名に実際にお膳を使って実演させる。 ○客観的に見ることを通して，一つの動作からその人の人間性(品位)が見えることに気付かせたい。 ○きまりの意味を考えさせる。 ○「礼儀は大切」派と「堅苦しいから嫌」派に分けて意見を交流させる。 ○日本の習慣の底にある，相手を大切にし思いやる気持ちについて理解が深められるようにしたい。
終末	5　指導者の話を聞く。	○習慣として伝えられている言動は，人間関係や社会生活を円滑にするために作り出された文化である。正しく理解して，他の人と気持ちよく接することができるようにしたい。	○自分たちの生活を振り返り，「守らなくてはならない」ではなく「守っていきたいな」という心情や意欲をもたせるようにしたい。

「おばあちゃんが教えてくれたこと」

【前半】

「いっただきまーす！」

たかしは大好きなコロッケを手でつかんで食べ始めました。

夏休み、お父さんやお母さんより一足早く、一人で東京から帰ってきたたかしを歓迎して、今日は、たかしの大好きなものがいっぱいです。

「よう一人で帰ってきたのぉ…。」

「えらかった。えらかった。」

おじいちゃんとおばあちゃんにほめられて、たかしは少しうれしくなりました。

「これ、すごくおいしいよ！」

食べることに夢中になって、いつのまにか片足がいすの上に乗っかっています。その時、いままでにこにこ笑ってたかしの様子を見ていたおじいちゃんの表情が変わりました。

「こらっ！　なんちゅう格好で食べよるんや！　みっともない！」

いきなり大きな雷が落ちてきました。

（しまった……。いつもお母さんに怒られているのに……。）

食事の雰囲気が、いっぺんに気まずくなってしまいました。

たかしは黙って好きなものだけ食べると、

「ごちそうさま。」

とそのまま席を立ちました。

おはしを使うのが苦手なたかしのお茶碗には、ごはんつぶがたくさんくっついています。おばあちゃんが焼いてくれたおいしそうな魚には、まったく手をつけていません。

そんなたかしの様子を、おじいちゃんがさびしそうな顔をして見ていたことに、たかしは気が付きませんでした。

【後半】

ピコピコピコ……ビューン、プシューン……。

たかしがテレビゲームをしていると、おばあちゃんがやってきて、そばに座りました。たかしの手元をじっと見つめています。

「たかしは、器用じゃねえ…。よう指が動いとる。ばあちゃんにはできんよ。」

「おばあちゃんもやってみる？」

「いいや、ええよ。ねえ、たかし。おじいちゃんがさっきどうしてあんなに怒ったか、わかるかねぇ。」

「お行儀が悪かったからでしょう？」

「そうよ。でも、何でお行儀が悪いと怒られるか、わかっとる？」

（えっ？　そう言えば『お行儀が悪い』ってどういうことなんだろう。）

「たかしは、食べ始めるときに必ず『いただきます！』と言うじゃろう。ばあちゃんは、それがとってもうれしいんよ。ええ子じゃと思う。」

（そんなの、あたりまえじゃんか！　別に『ええ子じゃ』って思わなくてもいいのに…。）

「たかしは、なんで食べる前に『いただきます』って言うか知っとる？　人間はね、いろんな生き物の命をもらわんと生きていけんのんよ。たかしが今日食べたお肉もお野菜も、みんなついこの前まで生きとったんよ。その命を奪って食べさせてもらうんだから、『命をいただきます。』って言いよるんよ。そして、食べ終わったら、『命をくださってありがとう』という気持ちと、食事を作ってくれた人への感謝の気持ちをこめて、『ごちそうさ

ま！』って言うんよ。だから、残さずきれいに食べないと、命を奪われた生き物の命も、たかしの口に入るまでに関わってくださったたくさんの人の苦労も、むだになると思わん？」
「う～ん……。」
「たかしは今日、コロッケを手で食べとったよね。外国では、手で食べるのが当たり前の国もあるんよ。でも日本は、おはしで食べるのが当たり前の習慣の国なんよ。だから、食べ物を手でつかむのはおかしいと思う人がおってんよ。日本では、昔からたくさんの人が一緒に食事をすることが多かったから、そこにいるみんなが嫌な思いをしないように、きまりを守って食べることを、小さいときから厳しくしつけられたんよ。」
「へえ～。じゃあ、どんなきまりがあったの。」
「きちんと正座をして食べるとか、お家によっては、食べてる間は一言もしゃべっちゃいけないとか…。おはしについて言えば、『ねぶり箸』と言って、はしについたものを口でなめて取ってはいけないとか、『刺し箸』と言って、料理を突き刺して食べてはいけないとか、『迷い箸』と言って、どれを食べようかと迷って、料理の上であちこちとはしを動かしてはいけないとか。こういう食べ方をすると、見ている人が気分が良くないでしょ？ごはんにはしを突き立てる『立て箸』や一つの料理を二人ではさむ『二人箸』は、お葬式を連想させるから、してはいけないと言われとるんよ。」
「ぼく、全然知らなかった……。」
「『はし』っていう言葉はね、『ものとものを結ぶ』と言う意味があるんよ。『橋』は岸と岸とを結ぶものだし、ひもや布の『端』は他のものと結ぶ場所でしょう？　昔の日本の人はね、食べ物を与えてくれる自然を神様と考えていたの。秋のお祭りは、実りを与えてくださった神様たちに感謝する行事なんよ。神様に差し上げた食べ物を自分たちがもらうとき、神様と自分たちを結ぶ道具として『おはし』を使うようになったんだって。だから、『いただきます』と言って『おはし』でみんなが気持ちよく食べ、『ごちそうさま』って食べ終わることが、神様に対する感謝の気持ちを表すものと考えたんじゃろうね。だから、そのきまりを守れない人は、お行儀が悪い人だって言われるんよ。」
「ふう～ん。」
「おじいちゃんはね、たかしに一緒にごはんを食べる人に嫌な思いをさせずに、感謝の気持ちを持って食事をすることができる人になってほしいと思っとってんよ。じゃけえ、あんなに怒っちゃったんよ。ばあちゃんは、たかしにおはしをきちんと使えるようになってほしい。おはしがきちんと持てると、大きいものも小さいものもきちんとつかめるから、いろんなものが食べやすいんよ。お魚も上手に食べられるようになるよ。」
「う～ん…。」
　たかしは、さっきのおじいちゃんの顔を思いだしていました。
「食事の時にしてはいけないことはまだまだたくさんあるから、たかしもこれから調べてみるといいんじゃないかねぇ。『しつけ』ってね、漢字で『身を美しくする』って書くんよ。ばあちゃんも、おじいちゃんも、たかしに、自分の行動をもっともっと美しくしていける子になってほしいと思っとるんよ。」
（自分の身を美しくするって、どうやっていったらいいんだろう？）

活用に生かすための実践報告

◎「おばあちゃんが教えてくれたこと」

１　主題の設定

その国の習慣には，共通に承認された一定の形がある。これは人間関係や社会生活を円滑に進めるために作り出された文化である。「礼儀」というと堅苦しくて嫌だ，なぜ守らなくてはいけないのかという風潮が強いが，日本の習慣の底にある，相手を大切にし，思いやる気持ちを理解し，それを受け継ぐことの大切さに気付かせたい。

対象学年は第１学年で，礼儀についての意識が薄れ始める二学期後半の，文化についての関心が高まる時期に行うと効果的である。礼儀の大切さを頭では理解しているが，なかなか実行することが難しい生徒にポイントを置き，級友の動作化によって箸の使い方を客観的に見た感想を交流することを通して，自らの行動を振り返り，礼儀の真の意味について考えることができるのではないかと考える。

２　指導過程の工夫

資料は，主人公たかしがおばあちゃんからお箸のことなどをいろいろ教えてもらうという，知識伝達型のものである。これを読んだだけでは道徳的心情を高めることは難しいので，動作化を取り入れた。自らが演じること，あるいは演じている級友の姿を見ることによって，普段何気なく行動していることが，周囲の目にどのように映っているのかを考えることができる。「だれにも迷惑をかけていないからいい」「他の人には関係ない」という考え方を，「礼儀大切」派と「堅苦しいから嫌」派の話し合いを通して客観的に振り返らせたい。

動作化では，お膳を実際に用意して行うことがイメージをふくらませるのには効果的である。礼儀や文化について，調べ学習に発展させることも可能であろう。

３　発問の工夫

発問では，礼儀の大切さを述べるのではなく，「他の人から見てどうなのか」「なぜ，これらのきまりがあるのか」を考えさせたい。指導者が，「守らなくてもいいではないか」など逆の発問をすることによって，活発な話合いを仕組むことも必要であろう。

４　生徒の反応（授業後の感想）

導入の身近な生活の中の礼儀や習慣について，予想以上の反応があった。動作化もやりたいという希望が多く，「寄せ箸」や「たたき箸」などを自主的に演じた。話し合いでは「礼儀大切」派が大勢を占めた。「大人になったら恥ずかしい」「礼儀知らずは社会人失格」と言う意見もあった。授業後の感想では，「相手を大切にする気持ちをこれからも持っていきたい」「知らないことがたくさんあったので，これからしっかり学びたい」の一方で，「礼儀って大変だ！」という声もあった。

５　実践者からの一言

この学習の後，昼食時の箸の使い方について話したり，食事のマナーについて注意し合う姿が見られた。時間的な余裕があれば２時間扱いとして，引き続き，ものを食べながら歩くことやジベタリアンなど，現代のマナーについて意見交流してもおもしろいのではないだろうか。

（安佐中学校　大下恵子）